

# 第28期 定時株主総会 招集ご通知

開催日時 2020年6月26日(金曜日) 午前10時

開催場所 東京都港区南青山6-10-12  
フェイス南青山  
Future SEVEN

**会場変更** 開催場所が前回の定時株主総会と異なります。  
末尾の「定時株主総会会場ご案内図」をご参照ください。

議 案 第1号議案 取締役8名選任の件  
第2号議案 監査役1名選任の件  
第3号議案 補欠監査役1名選任の件

## 目 次

第28期定時株主総会招集ご通知……………	1
(添付書類)	
事業報告……………	6
連結計算書類……………	29
計算書類……………	32
監査報告……………	35
株主総会参考書類……………	43

### ご来場自粛のお願い

本総会は、株主の皆様の健康と安全に配慮し、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、**極力、書面またはインターネットによる事前の議決権行使をご活用いただき、本総会当日のご来場をお控えいただきますよう強くお願い申しあげます。**

なお、本総会当日までの感染拡大の状況や政府等の発表内容等により、本総会の運営を変更する場合がございます。インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.faith.co.jp/>) より、発信情報をご確認ください。併せてお願い申しあげます。

### 当日のお土産について

本総会にご出席の株主の皆様へお土産のご用意はございませんので、予めご了承ください。

## 株主各位

京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1  
井門明治安田生命ビル

**株 式 会 社 フ ェ イ ス**  
代表取締役社長 平 澤 創

### 第28期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第28期定時株主総会を後記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本総会は、株主の皆様のご健康と安全に配慮し、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、例年よりも縮小した規模で開催させていただきます。

このため、株主総会会場において感染防止に必要な措置を講じる場合があるほか、ご来場いただいても入場をお断りする場合がございます。また、開催時間を短縮するために、議場における報告事項および議案の詳細な説明は省略させていただきます。

株主の皆様におかれましては、後記の「株主総会参考書類」をご検討のうえ、極力、書面またはインターネットによる事前の議決権行使をご活用いただき、株主総会当日のご来場をお控えいただきますよう強くお願い申し上げます。

敬 具

#### 議決権行使のご案内



書面により  
議決権を行使していただく場合

- 同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、
- ▶ 2020年6月25日（木曜日）午後5時まで  
に当社に到着するようご返送ください。



インターネットにより  
議決権を行使していただく場合

- 当社指定の議決権行使ウェブサイト (<https://www.web54.net>) にアクセスし、同封の議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」および「パスワード」をご利用になり、画面の案内にしたがって、
- ▶ 2020年6月25日（木曜日）午後5時まで  
に議案に対する賛否をご入力ください。

※当日ご来場の際は、同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

記

<p><b>1 日 時</b></p>	<p>2020年6月26日（金曜日）午前10時</p>
<p><b>2 場 所</b></p>	<p>東京都港区南青山6-10-12 フェイス南青山 Future SEVEN          ※本総会は、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明であることから、会場の確保が困難になる事態に備え、<b>当社施設において開催いたします。</b>末尾の「定時株主総会会場ご案内図」をご参照ください。          ※本総会において議決権を有する株主様には、本総会の状況を当社の指定するウェブサイトにおいてライブ中継する予定でございます。同封のご案内にしたがってご視聴ください。なお、議決権の行使は、事前に書面またはインターネットにより行っていただく必要がございます。また、ライブ中継をご視聴される株主様におかれましては、質問や動議はできませんので、予めご了承のほど、お願い申し上げます。          ※本総会会場においてご用意できる席数が例年より大幅に減少するため、<b>当日ご来場いただいても入場をお断りする場合がございます。</b>加えて、発熱があると認められる方、体調不良と思われる方、海外から帰国されてから14日間が経過していない方は、入場をお断りし、お帰りいただく場合がございます。なお、海外から帰国されてから14日間が経過していない株主様は、受付でお申し出いただきますようお願いいたします。また、当社役員につきましても、株主総会当日の健康状態にかかわらず、<b>一部の役員のみのお出席とさせていただきます。</b>          ※会場受付付近で、株主の皆様のためのアルコール消毒液を配備いたします。ご来場の株主の皆様は、マスクの持参・着用をお願い申し上げます。          ※開催時間を短縮するために、<b>議場における報告事項（監査報告を含みます。）および議案の詳細な説明は省略させていただきます。</b>予めご了承のほど、お願い申し上げます。</p>
<p><b>3 目的事項</b></p>	<p><b>報告事項</b> 1. 第28期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）          事業報告、連結計算書類および計算書類報告の件          2. 会計監査人および監査役会の第28期連結計算書類監査結果報告の件</p> <p><b>決議事項</b> 第1号議案 取締役8名選任の件          第2号議案 監査役1名選任の件          第3号議案 補欠監査役1名選任の件</p>
<p><b>4 議決権の行使等についてのご案内</b></p>	<p>4頁に記載の【議決権の行使等についてのご案内】をご参照ください。          株主の皆様の健康と安全に配慮し、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、<b>極力、書面またはインターネットによる事前の議決権行使をご活用いただき、株主総会当日のご来場をお控えいただきますよう強くお願い申し上げます。</b></p>

- 事業報告、連結計算書類、計算書類および株主総会参考書類に記載すべき事項を修正する必要がある場合は、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイトに掲載いたしますのでご了承ください。
- 招集ご通知において提供すべき書類のうち、以下の事項につきましては、法令および当社定款の定めにより、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、添付書類には記載しておりません。
  - ① 連結計算書類の連結注記表
  - ② 計算書類の個別注記表会計監査人および監査役が監査した連結計算書類および計算書類は、添付書類に記載の各書類のほか、下記ウェブサイトに掲載している連結注記表および個別注記表となります。
- 書面およびインターネットによる議決権行使が重複してなされた場合の取扱い  
書面およびインターネットにより重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使の内容を有効として取扱わせていただきます。
- インターネットによる議決権行使が重複してなされた場合の取扱い  
インターネットにより複数回数にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。また、パソコン、スマートフォンと携帯電話で重複して議決権を行使された場合も、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。

当社ウェブサイト (<https://www.faith.co.jp/>)

以上

## 議決権の行使等についてのご案内

議決権は、以下の方法により行使いただくことができます。

株主の皆様の健康と安全に配慮し、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、本総会につきましては、後記の「株主総会参考書類」をご検討のうえ、**極力、書面またはインターネットによる事前の議決権行使をご活用いただき、株主総会当日のご来場をお控えいただきますよう強くお願い申し上げます。**

### 書面で議決権を行使される場合



同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、切手を貼らずにご投函ください。

**行使期限** 2020年6月25日(木曜日) 午後5時到着分まで

### インターネットで議決権を行使される場合



パソコン、スマートフォンまたは携帯電話から議決権行使ウェブサイト (<https://www.web54.net>) にアクセスし、同封の議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」および「パスワード」をご入力いただき、画面の案内にしたがって賛否をご入力ください。

**行使期限** 2020年6月25日(木曜日) 午後5時まで

※当日ご来場の際は、同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。(ご捺印は不要です。)

- ① 株主様以外の方による不正アクセス(“なりすまし”)や議決権行使内容の改ざんを防止するため、ご利用の株主様には、議決権行使ウェブサイト上で「パスワード」の変更をお願いすることとなりますのでご了承ください。
- ② 株主総会の招集の都度、新しい「議決権行使コード」および「パスワード」をご通知いたします。
- ③ 議決権行使ウェブサイトへのアクセスに際して発生する費用(インターネット接続料金・電話料金等)は株主様のご負担となります。また、携帯電話をご利用の場合は、パケット通信料その他携帯電話利用による料金が必要となりますが、これらの料金も株主様のご負担となります。

# インターネットによる議決権行使のご案内

インターネットにより議決権を行使される場合は、パソコン、スマートフォンまたは携帯電話から当社の指定する議決権行使ウェブサイトへアクセスし、画面の案内にしたがってご行使くださいますようお願い申し上げます。

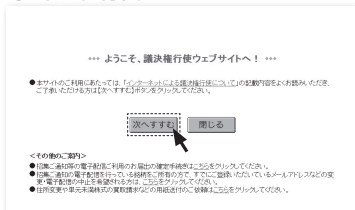
当社の指定する議決権行使ウェブサイト <https://www.web54.net>



バーコード読取機能付のスマートフォンまたは携帯電話を利用して右上のQRコード®を読み取り、議決権行使ウェブサイトへ接続することも可能です。なお、操作方法の詳細についてはお手持ちのスマートフォンまたは携帯電話の取扱説明書をご確認ください。(QRコード®は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。)

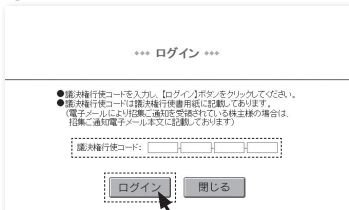
議決権行使期限：2020年6月25日(木曜日)午後5時まで

## ① 議決権行使ウェブサイトへアクセス



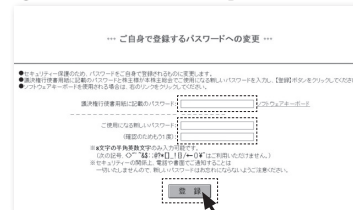
<https://www.web54.net> 「次へすすむ」をクリック

## ② ログインする



お手元の議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」を入力し、「ログイン」をクリック

## ③ パスワードの入力



お手元の議決権行使書用紙に記載された「パスワード」および実際にご使用になる新しいパスワードを入力し、「登録」をクリック

以降は画面の入力案内に従って賛否をご入力ください。

- ※ インターネットにより複数回数にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効な議決権行使として取扱わせていただきます。
- ※ インターネットと書面の両方で議決権行使をされた場合は、インターネットによる議決権行使を有効なものとして取扱わせていただきます。

インターネットによる議決権  
行使に関するお問い合わせ

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル  
フリーダイヤル 0120-652-031 (受付時間 9:00~21:00)

(添付書類)

# 事業報告 (2019年4月1日から2020年3月31日まで)

## 1 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過および成果

国内の情報通信分野においては、2018年においてもインターネット普及率は79.8%と高水準で推移しており、中でもスマートフォンを保有している世帯割合は79.2%とパソコンを保有する世帯割合を上回る状況となっています(※1)。

一方、2000年以降、若年層を中心にテレビ離れの動きが進み、2018年には平日休日ともにインターネットの利用率がテレビ視聴率を初めて上回りました(※2)。さらに2019年の日本の広告費はインターネット向け広告費が前年比19.7%増の2兆1,048億円となり、テレビ向け広告費の1兆8,612億円を初めて上回りました(※3)。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策としてテレワークや自宅にいながら離れた相手とオンラインでコミュニケーションを図るサービスの普及が進み、今後もインターネット利用率の上昇とスマートフォンの普及拡大を背景に、デジタル化時代に沿ったサービスへの移行が加速していくものと見込まれます。

※1 出所：総務省 「平成30年通信利用動向調査の結果」

※2 出所：「平成30年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」

※3 出所：株式会社電通 「2019年 日本の広告費」

また、エンタテインメント市場においては、世界の音楽市場はストリーミングを中心に売上高は約2兆1,984億円(202億ドル)と前年比8.2%増加し、5年連続で売上高の伸びを記録しています(※4)。日本においては、音楽ビデオを含む音楽ソフトの生産実績は2,291億円と前年比5%減少し、依然としてパッケージ商品の縮小傾向が続いておりますが、有料音楽配信の売上実績は706億円と前年比10%増加いたしました。特にストリーミングは前年比33%上昇し、音楽配信売上金額の区分別シェアでは大きくダウンロードを上回りました(※5)。一方、「モノ消費からコト消費へ」ライフスタイルが変化するなか、ライブ・エンタテインメントの市場規模は継続した拡大が期待されたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大型イベントやライブ・コンサートは延期、中止を余儀なくされ、先行きについては不透明な状況が続いております。

※4 出所：IFPI 「Global Music Report 2020 - THE INDUSTRY IN 2019」

※5 出所：一般社団法人日本レコード協会 「日本のレコード産業2020」

当社は1992年に創業され着信メロディを世界で初めて事業化するなど、携帯電話の普及とともに音楽配信事業を中核として順調に成長してまいりました。現在の音楽市場はスマートフォンの普及に伴い、ストリーミング、一般ユーザーが社会へ容易に情報発信できるユーザーアップロードコンテンツ(UUC)やソーシャルメディアといっ

たメディアが多様化するなか、コンテンツの流通方法をはじめ、消費スタイルや、コンテンツの制作方法等、音楽業界のあらゆる活動が変化している状況にあります。

このような環境の下、当社グループは、創業以来コンテンツのデジタル流通に注力してきた取組みを活かし、引き続き『マルチコンテンツ&マルチデバイス戦略（様々なコンテンツを、必要なときに、必要な場所で楽しむことができる環境の創造）』を推進し、インターネット上に溢れる情報を収集、整理し、付加価値を高めてユーザーに提供するプラットフォームの開発など市場環境の変化に応じた新規サービス展開に取り組んでまいりました。

また、訪日観光客数は2018年に前年比8.7%増の年間3,119万人となり（※6）、日本におけるナイトタイムエコノミー市場の更なる拡大が期待されていましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的規模での感染拡大による海外からの入国制限が発令され感染対策での店舗営業の自粛要請に伴い、市場は縮小を余儀なくされる状況となりました。当社が運営いたします都内最大級のミュージックラウンジ「PLUSTOKYO」（プラストーキョー）、ものまねを中心とした世界の一流パフォーマンスを提供するエンタテインメント施設「コロッケミミックトーキョー」では営業を休止し、感染拡大防止と安全確保を最優先とし、行政の方針や行動計画に基づき、今後も迅速に対応してまいります。

※6 出所：日本政府観光局「平成30年 訪日外客数・出国日本人数」

当社は、2019年10月8日付で、株式会社KSRの全株式を取得し、フェイス・グループに迎え入れました。同社は2000年に設立された「湘南乃風」メンバーでもある新羅慎二氏が手掛ける国内レーベルです。ダンスミュージックを中心に様々なアーティストを輩出するとともに、楽曲制作、プロモーション、イベントなどエンタテインメントの分野にて幅広い事業を展開しています。今後は、フェイス・グループが進めるアーティスト向けプラットフォーム事業やアーティストの育成・開発、楽曲制作、宣伝・販売などの事業に対する相乗効果を発揮してまいります。



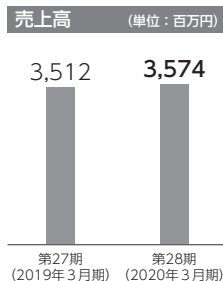
当社グループの当連結会計年度の業績については、売上高は主要な売上である既存配信サービス売上の減少および新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため店舗の営業を休止したことに伴い、前期比4.2%減の20,093百万円、営業利益はレーベル事業における利益率の高い自社販売作品や音源使用にかかる売上の増加等により、前期比166.9%増の385百万円、経常利益は投資事業組合運用損益の計上等により471百万円（前期は経常損失586百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は固定資産および非上場株式の減損処理に伴い特別損失を計上したため884百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失309百万円）となりました。

なお、当期の配当につきましては、株主の皆様は株主総会の開催時期にかかわらず機動的な支払いを実施するため取締役会決議により決定し、当初公表通り1株当たり10円（うち中間配当5円は実施済）を予定しております。

	第27期 (2019年3月期)	第28期 (2020年3月期)	前連結会計年度比
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減率
売上高	20,965	20,093	4.2%減
営業利益	144	385	166.9%増
経常利益または経常損失 (△)	△586	471	—
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△309	△884	—

企業集団の事業区分別売上状況は次のとおりであります。

## コンテンツ事業



コンテンツ事業においては、既存配信事業の売上が減少を続けているため、新規性ある商品開発、多様化する収益機会の獲得に向けて各サービスの連動やプラットフォーム化のほか、高い成長率が見込めるアジア諸国などでの事業展開を積極的に進めており、今後も新たな成長分野への投資を行ってまいります。

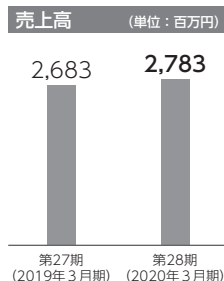
「FaRao PRO」は、業務用BGMの提供のみならず、店舗のブランディングを提案するソリューションやアナウンス機能など、店舗運営に必要な機能拡充を中心とした営業活動を積極的に展開しております。また、タブレット端末を使用する従来商品に加え、初期費用を抑えたアプリ版サービスのリリース、ポイント事業との連携による小売店営業の強化を進めております。日本でのサービスを基盤として、インドネシアにおいて「FaRao PRO」事業を展開しており、今後とも、国内外において新たなBGM市場の創造と活性化を目指してまいります。

今後拡大が期待される「D2C」(※)のビジネスモデルによるアーティスト向けプラットフォーム「Fans」は、オフィシャルサイトの構築、楽曲・映像配信、アーティストグッズの販売、ファンクラブ運営などアーティスト活動に必要な機能の拡充を行っております。2019年6月には、SNSとの連携強化によりファンがクリエイターの発信する情報を拡散することでコミュニティの創出に貢献できるシステムを導入するなど更なる機能拡充を図っており、より多くのアーティストが作品や情報を自由に発信できるサービスとして、利用者の獲得、拡大を目指すとともに、利便性の追求等サービス品質の向上に努めてまいります。

※自社で企画・製造したサービス・商品を直接ユーザーに届けるビジネス形態。Direct to Consumerの略称。

業績につきましては、新規事業の売上が寄与し、売上高は前期比1.8%増の3,574百万円となりましたが、キャリア公式サイトサービスの売上減少および新規事業の進捗の遅れ、新型コロナウイルス感染症の拡大による店舗営業の休止に伴い、営業損失は643百万円(前期は営業損失605百万円)となりました。

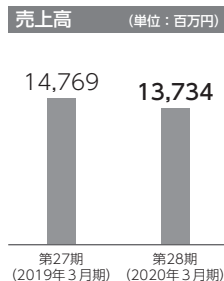
## ポイント事業



ポイント事業においては、ポイント発行サービスを小売店舗に提供するだけでなく、ポイント発行データ取得・分析・販促活用を一連のサイクルとして企画から運用までトータルでサポートし、小売業の販促効率を最大限に高めるアウトソーシングサービスを提供しております。

業績につきましては、既存加盟店でのポイント発行が、販売促進施策の展開により堅調に推移したため、売上高は前期比3.8%増の2,783百万円となりました。営業利益は棚卸資産の評価減の増加により、前期比9.0%減の104百万円となりました。

## レーベル事業



レーベル事業においては、音楽市場の変化に伴う音楽・映像関連業界の厳しい環境の下、パッケージ商品に依存している状況からの脱却を図るため、将来を見据えた新規事業の強化を進めております。今後も継続的に音楽業界の主要な役割を果たし、収益を拡大していくためには、ヒット作品の創出、マネジメント、ライブ事業への投資に加えて、刻々と変化する市場環境を先取りしたサービスの投入が必要であると考えております。

業績につきましては、株式会社ドリーミュージックにおけるアニメ関連商品および日本コロムビア株式会社におけるアニメ作品、ゲーム作品の売上が前期に比べ減少したため、売上高は前期比7.0%減の13,734百万円となりました。営業利益は、第4四半期にライブ売上の減少があったものの、新たに連結子会社となりました株式会社KSRの業績が堅調であったことや日本コロムビア株式会社において所属アーティストのライブ売上が好調であったこと、音源使用にかかる売上の堅調な推移などにより、前期比46.3%増の923百万円となりました。

### ② 設備投資の状況

当連結会計年度におきましては、特記すべき設備投資を行っておりません。

### ③ 資金調達の状況

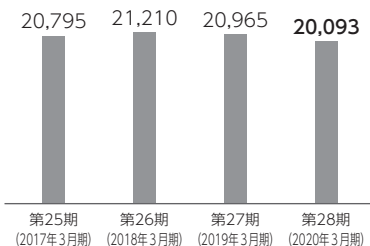
当連結会計年度におきましては、特記すべき資金調達を行っておりません。

### ④ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況

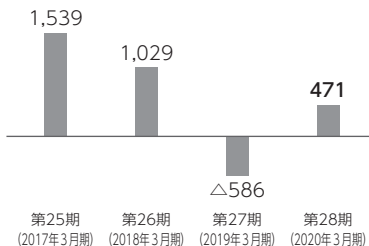
該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産および損益の状況

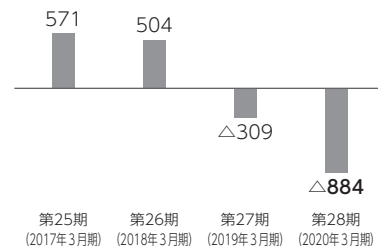
売上高 (単位：百万円)



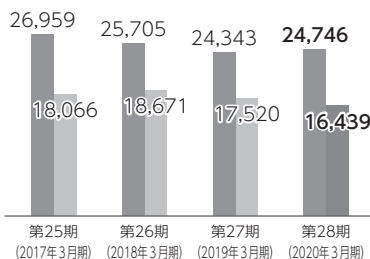
経常利益または経常損失(△) (単位：百万円)



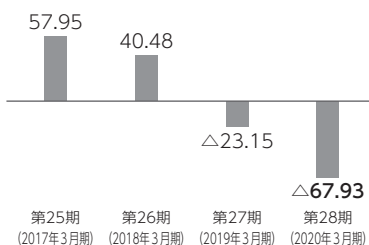
親会社株主に帰属する当期純利益または親会社株主に帰属する当期純損失(△) (単位：百万円)



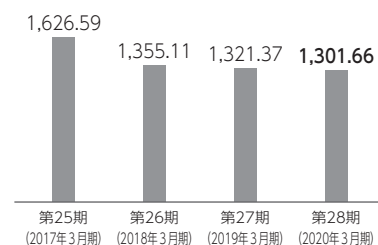
総資産/純資産 (単位：百万円)



1株当たり当期純利益または1株当たり当期純損失(△) (単位：円)



1株当たり純資産額 (単位：円)



		第25期 (2017年3月期)	第26期 (2018年3月期)	第27期 (2019年3月期)	第28期 (当連結会計年度) (2020年3月期)
売上高	(百万円)	20,795	21,210	20,965	20,093
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	1,539	1,029	△586	471
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	571	504	△309	△884
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)	(円)	57.95	40.48	△23.15	△67.93
総資産	(百万円)	26,959	25,705	24,343	24,746
純資産	(百万円)	18,066	18,671	17,520	16,439
1株当たり純資産額	(円)	1,626.59	1,355.11	1,321.37	1,301.66

### (3) 重要な子会社の状況

#### 重要な子会社の状況

会社名	資本金 (百万円)	当社の議決権比率 (%)	主要な事業内容
株式会社フェイス・ワンダワークス	100	100.0	コンテンツ事業
ジャパンミュージックネットワーク株式会社	200	100.0	コンテンツ事業
グッディポイント株式会社	100	100.0	ポイント事業
日本コロムビア株式会社	100	100.0	レーベル事業
株式会社ドリーミュージック	10	70.0	レーベル事業

(注) 当事業年度の末日における特定完全子会社の状況は、次のとおりであります。

特定完全子会社の名称	日本コロムビア株式会社
特定完全子会社の住所	東京都港区虎ノ門4丁目1番40号
当社および当社の完全子会社における 特定完全子会社の株式の帳簿価額	7,697百万円
当社の総資産額	17,551百万円

#### (4) 対処すべき課題

国内のコンテンツ産業は、次々と出現する新たな発想による技術や情報伝達手段等により成長を続けております。また、これに伴いユーザーニーズの多様化・複雑化もさらに加速し、市場では無料配信をはじめとする種々雑多なコンテンツが氾濫しております。当社グループは、グループシナジーの追求とグループ全体での効率的な事業運営を行うとともに、市場環境に対応した付加価値の高い優良なコンテンツをネットワークや情報端末にとらわれず横断的に提供することを目指し、以下の施策を実行してまいります。

##### <コンテンツ事業>

当社グループは、これまで蓄積してきた技術・ノウハウと独自のビジネスソリューションを基に、各方面の有力企業との提携等を通じて、コンテンツ権利者、配信事業者、ユーザーにメリットのある流通のしくみを開発することで、新たなマーケットを創造してまいります。その実現のため、自社でのコンテンツ制作はもちろん、コンテンツ権利者との提携による制作・プロデュースと、ユーザーとの接点強化のためのユーザーリーチの増大に努めてまいります。

また、当社グループは、創業以来、「様々な情報端末を利用して、コンテンツを配信するビジネスを構築すること」を事業の柱に据えてまいりました。今後も、コンテンツ権利者、配信事業者、ユーザーそれぞれにとって有用な新しいサービスのしくみを開発し、必要となる端末組み込み技術、配信システム技術等のテクノロジーを用いたプラットフォームを構築することにより、新しいコンテンツ流通のしくみを創出してまいります。

##### <ポイント事業>

小売業が中心であったこれまでのポイントサービスは、近年、業種の垣根を越えたポイントの相互利用等のアライアンスが進行中であり、ポイントサービス間の競争が激化しております。このような状況において、当社グループは、O2O（オーツーオー：Online to Offline）を含む、新たなポイントサービス事業を創造してまいります。そのための開発の低コスト化や、簡便性向上などを通じたポイントサービスの顧客満足度向上、およびその実現のための提案力強化等を課題として認識し、戦略的な取り組みを進めてまいります。

### <レーベル事業>

レーベル事業につきましては、音楽・映像関連業界の厳しい環境の下、企画した音源や映像などのコンテンツに基づく商品を主として販売する市販/配信事業においては、ヒットアーティストの育成・ヒット作品の創出によるアーティストラインアップの充実、豊富なカタログ音源の活用およびエンタテインメント事業における新規事業の拡大に経営資源を集中することにより、事業効率を高め、収益性を向上させてまいります。

制作した音源や映像を二次利用したコンテンツを販売する特販/通販事業のうち、特販事業においては、引き続き既存の取引先との関係を強化するとともに、新規販売チャネル、新規取引先の開拓を進めてまいります。また、豊富なコンテンツを有効活用することにより、シニア向け、団塊世代向けの商品をはじめとする企画商品を充実させ、音源の多角的事業展開を図ってまいります。

また、通販事業においては、「受注」「決済」「配送」などの通販業務を一貫して効率的に運用できるフルフィルメントシステムにより、効率的に事業を展開しております。さらに、他のレコード会社と同システムを活用する業務提携を行うことで、新規販売先の獲得および業務管理手数料などの新たな収益の獲得に成功しております。今後も、同様の業務提携を業界他社や異業種企業へ拡大すべく、提携企業と共同でのCD・DVD商品の企画・制作や顧客ニーズを勘案した生活雑貨分野の商品企画などにも取り組んでまいります。

当社グループでは新型コロナウイルス感染症の長期化による行動様式の変化および終息後の新たな価値観の定着を見据え、また、エンタテインメント業界において戦略的かつ機動的な投資を迅速に進めるための資金を確保し、事業環境の変化に迅速かつ柔軟に対応してまいります。

株主の皆様には、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## (5) 重要な企業結合の状況

該当事項はありません。

## (6) 主要な事業内容 (2020年3月31日現在)

当社グループは、「コンテンツ事業」、「ポイント事業」および「レーベル事業」を主たる業務としております。その概要は次のとおりであります。

事業区分	主要な事業内容
コンテンツ事業	コンテンツ配信サービス、配信プラットフォーム技術の開発、コンテンツ制作プロデュース
ポイント事業	ポイントサービスの提供等
レーベル事業	ミュージックソフト・ゲームソフト等の制作、宣伝、販売および音楽アーティストのマネジメント

## (7) 主要な事業所 (2020年3月31日現在)

### ① 当社の主要な事業所

本 社 (京都市中京区)  
南青山オフィス (東京都港区)

### ② 主要な子会社の事業所

株式会社フェイス・ワンダワークス (東京都港区)  
ジャパンミュージックネットワーク株式会社 (東京都港区)  
グッドポイント株式会社 (京都市中京区)  
日本コロムビア株式会社 (東京都港区)  
株式会社ドリーミュージック (東京都港区)



**(8) 使用人の状況 (2020年3月31日現在)****① 企業集団の使用人の状況**

事業区分	使用人数	前連結会計年度末比増減
コンテンツ事業	160 (46) 名	22 (△61) 名
ポイント事業	18 (2)	△3 (△3)
レーベル事業	273 (25)	68 (△43)
合 計	451 (73)	87 (△107)

- (注) 1.使用人数は就業人数であり、臨時従業員（契約社員・アルバイト社員・人材会社からの派遣社員）は（ ）内に外数で記載しております。  
 2.コンテンツ事業の臨時従業員数が61名減少しておりますが、主に株式会社ワクワワークスの臨時従業員の減少によるものであります。  
 3.レーベル事業の使用人数の増加と臨時従業員数の減少は、主に日本コロムビア株式会社の従業員登用によるものであります。

**② 当社の使用人の状況**

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
128名	21名増	37.4歳	5.9年

- (注) 上記には、グループ会社からの出向社員21名が含まれ、臨時従業員（契約社員・アルバイト社員・人材会社からの派遣社員）14名は含まれておりません。

**(9) 主要な借入先の状況 (2020年3月31日現在)**

借入先	借入残高	
	当社残高	子会社残高
株式会社三井住友銀行	278百万円	74百万円
三井住友信託銀行株式会社	131百万円	415百万円

**(10) その他企業集団の現況に関する重要な事項**

該当事項はありません。

## 2 会社の現況

### (1) 株式の状況（2020年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 19,900,000株
- ② 発行済株式の総数 13,831,091株
- ③ 株主数 12,288名（前期末比488名減）

### ④ 大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
平澤 創	4,794,838株	37.19%
RMB JAPAN OPPORTUNITIES FUND, LP.	1,518,310	11.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	459,600	3.56
株式会社第一興商	367,363	2.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	353,700	2.74
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	239,442	1.85
BNYM NON-TREATY DTT	219,970	1.70
吉本興業ホールディングス株式会社	206,870	1.60
NPBN-SHOKORO LIMITED	171,840	1.33
NOMURA PB NOMINEES TK1 LIMITED	169,960	1.31

- (注) 1) 当社は自己株式を939,340株所有しておりますが、上記大株主から除いております。  
2) 持株比率は自己株式（939,340株）を控除して計算しております。  
3) 持株比率は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## (2) 会社役員 の 状況 (2020年3月31日現在)

## ① 取締役および監査役の状況

地位	氏名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	平 澤 創	最高経営責任者 株式会社八創代表取締役 日本コロムビア株式会社取締役会長 株式会社GENESIS代表取締役 株式会社ドリーミュージック取締役会長 株式会社ワクワクワークス取締役会長 株式会社フューチャーレコーズ取締役会長
取締役副社長	吉 田 眞 市	最高執行責任者 日本コロムビア株式会社取締役副会長 株式会社ドリーミュージック取締役副会長
専務取締役	中 西 正 人	最高戦略責任者 株式会社ウィズ・パートナーズ監査役 株式会社ワクワクワークス代表取締役副社長 株式会社フェイス・ワンダワークス代表取締役社長 株式会社フェイス・プロパティー代表取締役社長
取締役	佐 伯 次 郎	最高財務責任者 グループ管理本部長 株式会社フェイスフューチャーファンド代表取締役社長 BIJIN&Co.株式会社取締役
取締役	別 所 哲 也	株式会社パシフィックボイス代表取締役 ショートショートフィルムフェスティバル&アジア代表 株式会社ビジュアルボイス代表取締役 観光庁VISIT JAPAN大使 株式会社キャストイングボイス代表取締役社長 横浜市専門委員

地位	氏名	担当および重要な兼職の状況
取締役	正宗エリザベス	国立大学法人千葉大学経営協議会委員 株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン代表取締役 株式会社アドバンジェン取締役 東京商工会議所日豪経済委員会次世代リーダープログラム担当委員 株式会社パソナグループ顧問 株式会社パソナグループ淡路ユースフェデレーション専務理事 荒川化学工業株式会社取締役
取締役	水戸重之	TMI総合法律事務所パートナー弁護士 株式会社ブロッコリー監査役 株式会社湘南ベルマーレ取締役 株式会社タカラトミー取締役 吉本興業ホールディングス株式会社取締役
常勤監査役	長吉晋	日本コロムビア株式会社監査役
監査役	清水章	公認会計士・税理士（清水公認会計士・税理士事務所） グッディポイント株式会社監査役 日本商業開発株式会社監査役 東銀座監査法人社員
監査役	菅谷貴子	弁護士（山田・尾崎法律事務所） 学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学大学院法務研究科准教授 日本コロムビア株式会社監査役 トーセイ・リート投資法人監督役員 日通商事株式会社監査役 株式会社はるやまホールディングス取締役 ライオン株式会社取締役

- (注) 1) 取締役別所哲也氏、取締役正宗エリザベス氏および取締役水戸重之氏は、社外取締役であります。
- 2) 監査役清水章氏および監査役菅谷貴子氏は、社外監査役であります。
- 3) 取締役矢崎一臣氏は任期満了により、2019年6月27日付で退任いたしました。
- 4) 監査役清水章氏は、公認会計士および税理士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。
- 5) 当社は、取締役別所哲也氏、取締役正宗エリザベス氏、取締役水戸重之氏、監査役清水章氏および監査役菅谷貴子氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
- 6) 当社は、取締役別所哲也氏、取締役正宗エリザベス氏、取締役水戸重之氏、監査役長吉晋氏、監査役清水章氏および監査役菅谷貴子氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づく責任限定契約を法令に定める最低責任限度額を限度として締結しております。

## ② 取締役および監査役に支払った報酬等の総額

区分	支給人員	支給額
取締役	8名	139百万円
監査役	3名	16百万円
合計 (うち社外役員)	11名 (5)	155百万円 (21)

- (注) 1) 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。また、業績連動型株式報酬制度に基づく役員株式報酬引当金繰入額16百万円ならびに役員社宅制度に基づく地代家賃9百万円は含まれておりません。
- 2) 取締役の報酬限度額は、2001年3月15日開催の臨時株主総会において年額250百万円以内（ただし、使用人分給与は含みません。）と決議いただいております。また、2019年6月27日開催の第27期定時株主総会において、この報酬限度額とは別枠で取締役（社外取締役を除きます。）を対象に、当社が金銭を拠出することにより設定する信託の仕組みによる業績連動型株式報酬制度の導入を決議いただいております。当該信託に拠出する金銭の限度額は、2020年3月31日で終了する事業年度から2026年3月31日で終了する事業年度までの7事業年度の合計で581百万円であります。
- 3) 監査役の報酬限度額は、2001年3月15日開催の臨時株主総会において年額50百万円以内と決議いただいております。
- 4) 上表には、2019年6月27日開催の第27期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名が含まれております。

### ③ 社外役員に関する事項

#### 1) 他の法人等の業務執行者、社外役員の兼職状況

地位	氏名	兼職状況
取締役	別所 哲也	株式会社パシフィックボイス代表取締役 ショートショートフィルムフェスティバル&アジア代表 株式会社ビジュアルボイス代表取締役 観光庁VISIT JAPAN大使 株式会社キャストینگボイス代表取締役社長 横浜市専門委員
取締役	正宗エリザベス	国立大学法人千葉大学経営協議会委員 株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン代表取締役 株式会社アドバンジェン取締役 東京商工会議所日豪経済委員会次世代リーダープログラム担当委員 株式会社パソナグループ顧問 株式会社パソナグループ淡路ユースフェデレーション専務理事 荒川化学工業株式会社取締役
取締役	水戸 重之	TMI総合法律事務所パートナー弁護士 株式会社ブロッコリー監査役 株式会社湘南ベルマーレ取締役 株式会社タカラトミー取締役 吉本興業ホールディングス株式会社取締役
監査役	清水 章	公認会計士・税理士（清水公認会計士・税理士事務所） グッディポイント株式会社監査役 日本商業開発株式会社監査役 東銀座監査法人社員
監査役	菅谷 貴子	弁護士（山田・尾崎法律事務所） 学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学大学院法務研究科准教授 日本コロムビア株式会社監査役 トーセイ・リート投資法人監督役員 日通商事株式会社監査役 株式会社はるやまホールディングス取締役 ライオン株式会社取締役

- ・ 取締役別所哲也氏が兼職している株式会社パシフィックボイス、ショートショートフィルムフェスティバル&アジア、株式会社ビジュアルボイス、観光庁、株式会社キャストینگボイスおよび横浜市と当社との間には、重要な取引関係はありません。
- ・ 取締役正宗エリザベス氏が兼職している国立大学法人千葉大学、株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン、株式会社アドバンジェン、東京商工会議所、株式会社パソナグループおよび荒川化学工業株式会社と当社との間には、重要な取引関係はありません。

- ・取締役水戸重之氏が兼職しているTMI総合法律事務所との間には法律業務にかかる取引関係がありますが、その取引額は当社の当期連結決算における売上高の0.01%未満であり、僅少であります。また、同氏が兼職している株式会社プロックリー、株式会社湘南ベルマーレ、株式会社タカラトミーおよび吉本興業ホールディングス株式会社と当社との間には、重要な取引関係はありません。
- ・監査役清水章氏が兼職しているグッディポイント株式会社は当社の子会社であり、当社と同社との間には取引関係があります。また、同氏が兼職している清水公認会計士・税理士事務所、日本商業開発株式会社および東銀座監査法人と当社との間には、重要な取引関係はありません。
- ・監査役菅谷貴子氏が兼職している日本コロムビア株式会社は当社の子会社であり、当社と同社との間には取引関係があります。同氏が兼職している学校法人桐蔭学園、トーセイ・リート投資法人、日通商事株式会社、株式会社はるやまホールディングスおよびライオン株式会社と当社との間には、重要な取引関係はありません。また、同氏と当社との間には法律業務にかかる取引関係がありますが、その取引額は当社の当期連結決算における売上高の0.01%未満であり、僅少であります。

## 2) 当事業年度における主な活動状況

地位	氏名	主な活動状況
取締役	別所哲也	当事業年度開催の取締役会14回のうち11回に出席。報告事項や決議事項について、経験豊富な経営者の観点から有用なご指摘、ご意見をいただいております。
取締役	正宗エリザベス	当事業年度開催の取締役会14回のうち13回に出席。報告事項や決議事項について、経験豊富な経営者の観点から有用なご指摘、ご意見をいただいております。
取締役	水戸重之	当事業年度開催の取締役会14回のうち14回に出席。報告事項や決議事項について、経験豊富な弁護士の観点から有用なご指摘、ご意見をいただいております。
監査役	清水章	当事業年度開催の取締役会14回のうち14回に、また監査役会17回のうち17回に出席。公認会計士および税理士としての専門性に基づき、客観的な立場から有用なご指摘、ご意見をいただいております。
監査役	菅谷貴子	当事業年度開催の取締役会14回のうち14回に、また監査役会17回のうち17回に出席。弁護士としての専門性に基づき、客観的な立場から有用なご指摘、ご意見をいただいております。

## 3) 当社の子会社からの報酬等の総額

当事業年度において、社外監査役1名が当社子会社である日本コロムビア株式会社から受けている役員報酬等の総額は3百万円であります。

### (3) 会計監査人の状況

① 名 称 EY新日本有限責任監査法人

#### ② 報酬等の額

区分	報酬等の額
当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額	38百万円
当社および子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	69百万円

(注) 1)当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2)監査役会は、公益社団法人日本監査役協会の実務指針を参考にして、会計監査人の監査計画、監査の実施状況および報酬見積りの算出根拠などを確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等について同意を行っております。

#### ③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

#### ④ 会計監査人の解任または不再任の決定方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨および解任の理由を報告いたします。

なお、取締役会が、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任または不再任を株主総会の会議の目的とすることを監査役会に請求し、監査役会はその適否を判断したうえで、株主総会に提出する議案の内容を決定いたします。



#### (4) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は次のとおりであります。

##### ① 当社およびその子会社から成る企業集団（以下「当社グループ」といいます）の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- 1) 当社の代表取締役は、当社グループの企業理念、倫理方針およびコンプライアンス行動基準を策定し、当社グループ内に推進・定着させるとともに、自らかかる企業理念等に則した経営に率先して取り組んでまいります。
- 2) 上記企業理念等に沿った当社グループ全体のコーポレートガバナンス体制の構築と徹底を図るため、内部統制委員会を設置しております。
- 3) 当社に内部監査室を置き、当社グループ全体について、各子会社の規模、業態に応じて業務の適正性を監査しております。また、公正性・客観性を確保するために外部機関を通じた監査も実施しております。
- 4) 当社グループ外有識者により構成される「アドバイザリー・ボード（経営諮問委員会）」を設置し、当社グループ全体のコンプライアンス体制の向上と事業戦略決定プロセスの強化を図っております。
- 5) 当社グループ全体のコンプライアンス体制の強化と徹底を図るため、当社の代表取締役を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置しております。
- 6) 当社グループ内における法令違反その他のコンプライアンス違反を匿名でも実名でも申告、相談できる「内部通報制度」を構築し、当社内および当社グループ外に窓口を設置しております。
- 7) 反社会的勢力とは一切の関係を遮断することをコンプライアンス行動基準に定め、不当要求等に対しては、警察等の外部専門機関と緊密に連携し、毅然とした姿勢で組織的に対応することとしております。

##### ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- 1) 総務部担当役員は、法令および文書管理規程に基づき、次の文書（電磁的記録を含む）を関連資料とともに適切に保存し、かつ管理することとしております。
  - ・株主総会議事録
  - ・取締役会議事録
  - ・計算書類等
  - ・その他経営上重要な文書
- 2) 総務部担当役員は、上記1)に掲げる文書以外の文書についても、その重要度に応じて、文書管理規程に定めた期間保存し、かつ管理することとしております。
- 3) 総務部担当役員は、取締役および使用人に対して、文書管理規程に従って文書の保存、管理を適正に行うよう指導することとしております。

##### ③ 当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- 1) 当社は、当社グループ全体の事業活動に潜在する様々なリスクの管理について定めるリスク管理規程を策定し、各子会社の規模、業態に応じて当社グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理する体制を構築することとしております。

- 2) 大規模な事故、災害等が発生した場合や緊急時には、事業の継続を確保するための体制を整備することとしております。
- 3) 経営に重大な影響をもたらす事態が発生した場合には、代表取締役を委員長とし、必要な人員で組織する危機対策本部を設置するなどの対策を講じることとしております。

**④ 当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

- 1) 当社グループは、取締役会を原則毎月1回開催し、経営に関する重要事項について決定しております。
- 2) 当社は、事業の多様化に伴い、職務分掌や決裁権限を明確にするため稟議規程、職務権限規程および指揮命令系統を整備し、子会社においてもこれに準拠した体制を構築することとしております。
- 3) 当社は、社外取締役を置き、職務執行の公正性・客観性を確保することとしております。
- 4) 当社は、取締役が迅速に意思決定し、経営の監督に注力できるよう執行役員制度を活用することとしております。
- 5) 当社は、原則、毎月開催される経営会議（構成員：取締役、執行役員等）において、経営上、重要な事項を協議、検討することとしております。

**⑤ 次に掲げる体制その他当社グループにおける業務の適正を確保するための体制**

- 1) 当社グループ各社における業務の適正を確保するため、関係会社管理規程に基づき、当社グループ各社に対して経営内容に関する当社への定期的な報告を義務付けるとともに、当社グループ各社の状況に応じて必要な運営管理および支援業務を行うこととしております。
- 2) 重要な子会社に対しては、当社の役員および使用人を当該子会社の取締役および監査役として派遣し、当該子会社を管理、監督することとしております。
- 3) 当社グループの企業理念および倫理方針を共有し、これを推進、定着させるとともに、当社の「内部通報制度」を当社グループにおいても導入し、当社グループのコンプライアンス体制を確保することとしております。
- 4) 子会社の経営については、その自主性を尊重しつつ、事業内容を定期的に報告させ、重要案件については事前に協議を行うこととしております。

**⑥ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項ならびに当該使用人の取締役からの独立性および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項**

- 1) 監査役の職務を補助する使用人を配置することとしております。
- 2) 上記使用人は、当該補助業務に限っては監査役の指揮命令に服し、取締役その他の使用人の指揮命令は受けないこととしております。
- 3) 取締役からの独立性を確保するため、上記使用人の人事考課は監査役が行い、その任命、異動等については監査役の同意を得ることとしております。
- 4) 上記使用人は、監査役の職務を補助する業務の遂行にあたり、必要な情報のすべてを収集できるものとしております。

- ⑦ **当社グループの取締役・監査役等および使用人（以下、あわせて「当社グループ役職員」といいます）が当社の監査役に報告をするための体制**
- 1) コンプライアンスおよびリスクに関する事項等、当社グループに著しい損害を与えるおそれのある事実を発見した当社グループ役職員、またはこれらの者から報告を受けた当社グループ役職員は、当社の監査役に対してただちに報告することとしております。
  - 2) 当社グループ役職員は、当社の監査役から業務執行に関する事項の報告を求められた場合には、速やかに報告することとしております。
  - 3) 内部統制委員会、内部監査室およびコンプライアンス委員会は、その職務の内容に応じ、当社の監査役に対して随時報告を行うこととしております。
  - 4) コンプライアンス委員会は、当社の監査役から、当社グループ役職員からの内部通報の状況について報告を求められた場合には、通報者の匿名性に必要な処置をしたうえで当社の監査役に対して報告を行うこととしております。
- ⑧ **監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制**
- 当社は、前項に従い監査役への報告を行った当社グループ役職員に対し、当該報告を行ったことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループ役職員に周知徹底しております。
- ⑨ **監査役職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項**
- 監査役がその職務の執行について、当社に対し費用の前払い等の請求をしたときは、当社所定の手続により当該請求にかかる費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要なでないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理することとしております。
- ⑩ **その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制**
- 1) 監査役は、取締役会のほか、経営会議その他重要な会議に出席（第6項に定める使用人による代理出席を含む）することができるほか、重要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧することができます。
  - 2) 監査役は、定期的に会計監査人から会計監査の方法および結果について報告を受け、意見を交換することとしております。
  - 3) 監査役は、内部監査室と緊密な連携を図ることとしております。
  - 4) 監査役は、必要に応じて弁護士、公認会計士、税理士等の外部の専門家との間で情報交換を行い、助言を受けることとしております。
  - 5) 監査役は、代表取締役との定期的な意見交換を実施することとしております。
- ⑪ **財務報告の信頼性を確保するための体制**
- 当社は、金融商品取引法および関係諸法令等に基づき、財務報告の信頼性を確保し、内部統制報告が有効かつ適切に行われるような内部統制システムを構築・整備するとともに、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、必要な是正を行うこととしております。

## (5) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は次のとおりであります。

### ① コンプライアンス

- 1) コンプライアンス委員会において、当社グループ内で発見された法令違反・不正行為等の是正措置や再発防止措置等を検討および策定しております。
- 2) 相談および通報窓口である「内部通報制度」の運営状況は、コンプライアンス委員会において報告しております。
- 3) 当社グループ役職員の行動基準として「フェイス・グループ・コンプライアンス行動基準」を定め、遵守事項の周知徹底、助言、指導などの活動を行っております。

### ② リスク管理

- 1) 当社グループの危機管理に関する基本的事項について、リスク管理規程に定めております。
- 2) 不測の事態が生じた場合、事実関係の調査および評価を行い、その結果を受けて、代表取締役社長を本部長とする危機対策本部を設置し、その対応策等の検討や審議を行うこととしております。
- 3) 緊急連絡先への通報制度を構築し、リスクを一元的に収集・分類することで危機管理に必要な体制を整備しております。

### ③ グループ管理

- 1) 関係会社管理規程に従い、当社の経営企画部が中心となって定期的にグループ会社の業務運営を監督し、適正な管理を実施しております。
- 2) 当社グループにおける経営戦略・方針の策定および企業集団としてのシナジーに関する検討を行うため、常勤取締役、執行役員、幹部職員および各子会社の社長が出席するグループ戦略会議を実施しております。

### ④ 取締役の職務執行

- 1) 当社グループの内部統制システムの整備・運用状況について、内部統制委員会がモニタリングを実施し、その評価結果を最高財務責任者に報告しております。当事業年度におきまして、開示すべき重要な不備は発見されていません。
- 2) 取締役の迅速な意思決定と機能強化を目的として、執行役員制度を導入するとともに、社外取締役を登用し、職務執行の公正性および客観性を確保しております。
- 3) 当事業年度におきまして、取締役会を14回、経営会議を11回開催いたしました。

### ⑤ 監査役

- 1) 監査役は、取締役会や経営会議等重要な会議への出席のほか、当社の代表取締役社長や会計監査人、内部監査室、当社グループ会社の取締役および監査役等との間で定期的に情報交換を行うことにより、取締役の職務の執行について監査をしております。
- 2) 当事業年度におきまして、監査役会は17回開催し、監査役相互による意見交換を行っております。

## (6) 剰余金の配当等に関する決定方針

当社は、今後も企業体質の強化および積極的な事業投資に備えた資金確保を優先し、継続的な安定配当を行うという基本方針のもと、株主への利益還元についても重要な経営課題と認識しており、経営成績および財政状態を勘案しつつ利益配当を検討する所存であります。

# 連結計算書類

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	2020年3月31日現在
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>16,699,651</b>
現金及び預金	12,635,849
受取手形及び売掛金	2,199,541
有価証券	230,879
商品及び製品	446,811
仕掛品	578,771
原材料及び貯蔵品	75,973
未収還付法人税等	68,295
その他	482,059
貸倒引当金	△18,532
<b>固定資産</b>	<b>8,047,321</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>2,646,472</b>
建物及び構築物	1,018,691
機械装置及び運搬具	14,416
工具器具備品	111,558
リース資産	121
土地	1,501,684
<b>無形固定資産</b>	<b>1,975,960</b>
のれん	1,520,453
ソフトウェア	268,262
その他	187,244
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,424,888</b>
投資有価証券	2,145,096
繰延税金資産	765,419
その他	1,037,457
貸倒引当金	△523,083
<b>資産合計</b>	<b>24,746,972</b>

科目	2020年3月31日現在
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>6,686,405</b>
支払手形及び買掛金	1,039,823
短期借入金	609,900
未払金	706,817
未払費用	2,725,341
未払法人税等	341,858
賞与引当金	347,424
ポイント引当金	364
返品調整引当金	90,279
その他	824,594
<b>固定負債</b>	<b>1,621,554</b>
長期借入金	440,350
退職給付に係る負債	652,153
役員株式報酬引当金	16,401
繰延税金負債	333,275
その他	179,374
<b>負債合計</b>	<b>8,307,960</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>15,787,916</b>
資本金	3,218,000
資本剰余金	2,840,095
利益剰余金	10,854,165
自己株式	△1,124,344
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>651,096</b>
その他有価証券評価差額金	737,236
為替換算調整勘定	△21,026
退職給付に係る調整累計額	△65,114
<b>純資産合計</b>	<b>16,439,012</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>24,746,972</b>

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	2019年4月1日から 2020年3月31日まで
売上高	20,093,040
売上原価	12,605,521
売上総利益	7,487,518
販売費及び一般管理費	7,102,429
営業利益	385,088
営業外収益	194,226
受取利息	309
受取配当金	4,678
有価証券利息	121
投資事業組合運用益	117,104
持分法による投資利益	28,284
雑収入	43,727
営業外費用	107,456
支払利息	5,744
為替差損	10,076
有価証券評価損	1,016
有価証券売却損	2,076
投資事業組合運用損	79,857
雑支出	8,685
経常利益	471,858
特別利益	71,309
投資有価証券売却益	70,500
その他	809
特別損失	1,312,704
固定資産処分損	6,779
投資有価証券評価損	754,346
投資有価証券売却損	7,088
減損損失	544,490
税金等調整前当期純損失	769,536
法人税、住民税及び事業税	437,888
法人税等調整額	△323,124
当期純損失	884,300
非支配株主に帰属する当期純損失	—
親会社株主に帰属する当期純損失	884,300

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 連結株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2019年4月1日 首残高	3,218,000	3,019,175	11,872,088	△802,315	17,306,948
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△133,622		△133,622
親会社株主に帰属する 当期純損失			△884,300		△884,300
自己株式の取得				△690,108	△690,108
自己株式の処分		△179,079		368,079	189,000
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	△179,079	△1,017,922	△322,029	△1,519,031
2020年3月31日 期末残高	3,218,000	2,840,095	10,854,165	△1,124,344	15,787,916

	その他の包括利益累計額				非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	為 替 換 算 定 調 整	退職給付に係 る調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
2019年4月1日 首残高	307,035	△10,936	△82,758	213,340	-	17,520,288
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						△133,622
親会社株主に帰属する 当期純損失						△884,300
自己株式の取得						△690,108
自己株式の処分						189,000
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	430,201	△10,089	17,644	437,755		437,755
連結会計年度中の変動額合計	430,201	△10,089	17,644	437,755	-	△1,081,275
2020年3月31日 期末残高	737,236	△21,026	△65,114	651,096	-	16,439,012

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)



# 計算書類

## 貸借対照表

(単位：千円)

科目	2020年3月31日現在
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>4,305,452</b>
現金及び預金	3,410,341
売掛金	256,029
有価証券	230,879
商品及び製品	7,090
前払費用	38,488
未収還付法人税等	64,775
短期貸付金	1,160,750
その他	54,360
貸倒引当金	△917,263
<b>固定資産</b>	<b>13,246,220</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>2,468,497</b>
建物	926,049
構築物	2,664
車両運搬具	0
工具器具備品	38,888
土地	1,500,895
<b>無形固定資産</b>	<b>98,543</b>
のれん	9,000
ソフトウェア	77,958
電話加入権	1,584
その他	10,000
<b>投資その他の資産</b>	<b>10,679,179</b>
投資有価証券	1,644,552
関係会社株式	8,682,422
長期貸付金	506,000
その他	133,300
貸倒引当金	△287,095
<b>資産合計</b>	<b>17,551,673</b>

科目	2020年3月31日現在
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>611,468</b>
買掛金	64,316
短期借入金	185,100
未払金	148,085
未払法人税等	26,799
未払費用	19,209
預り金	67,263
賞与引当金	79,072
その他	21,620
<b>固定負債</b>	<b>747,618</b>
長期借入金	322,350
繰延税金負債	327,911
退職給付引当金	57,730
役員株式報酬引当金	16,401
関係会社事業損失引当金	21,426
その他	1,799
<b>負債合計</b>	<b>1,359,086</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>15,465,798</b>
<b>資本金</b>	<b>3,218,000</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>5,404,699</b>
資本準備金	3,708,355
その他資本剰余金	1,696,344
<b>利益剰余金</b>	<b>7,967,443</b>
利益準備金	1,500
その他利益剰余金	7,965,943
別途積立金	4,500,000
繰越利益剰余金	3,465,943
<b>自己株式</b>	<b>△1,124,344</b>
<b>評価・換算差額等</b>	<b>726,787</b>
その他有価証券評価差額金	726,787
<b>純資産合計</b>	<b>16,192,586</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>17,551,673</b>

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

# 損益計算書

(単位：千円)

科目	2019年4月1日から 2020年3月31日まで
売上高	2,153,570
売上原価	1,164,624
売上総利益	988,945
販売費及び一般管理費	1,369,103
営業損失	380,157
営業外収益	400,055
受取利息	23,305
受取配当金	317,994
有価証券利息	121
投資事業組合運用益	41,104
雑収入	17,528
営業外費用	947,380
支払利息	1,988
為替差損	735
有価証券評価損	1,016
投資事業組合損失	956
貸倒引当金繰入額	920,167
関係会社事業損失引当金繰入額	21,426
雑支出	1,090
経常損失	927,482
特別利益	70,500
投資有価証券売却益	70,500
特別損失	612,208
固定資産処分損	384
関係会社株式評価損	26,633
投資有価証券評価損	556,364
減損損失	28,825
税引前当期純損失	1,469,190
法人税、住民税及び事業税	4,889
法人税等調整額	△5,128
当期純損失	1,468,950

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
					別途積立金	繰越利益剰余金				
2019年4月1日 期首残高	3,218,000	3,708,355	1,875,423	5,583,778	1,500	4,500,000	5,068,516	9,570,016	△802,315	17,569,480
事業年度中の 変動額										
剰余金の配当							△133,622	△133,622		△133,622
当期純損失							△1,468,950	△1,468,950		△1,468,950
自己株式の取得									△690,108	△690,108
自己株式の処分			△179,079	△179,079					368,079	189,000
株主資本以外の項目 の事業年度中の 変動額(純額)										
事業年度中の 変動額合計	-	-	△179,079	△179,079	-	-	△1,602,573	△1,602,573	△322,029	△2,103,681
2020年3月31日 期末残高	3,218,000	3,708,355	1,696,344	5,404,699	1,500	4,500,000	3,465,943	7,967,443	△1,124,344	15,465,798
	評価・換算差額等			純資産合計						
	その他有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等							
2019年4月1日 期首残高	301,170		301,170	17,870,650						
事業年度中の 変動額										
剰余金の配当				△133,622						
当期純損失				△1,468,950						
自己株式の取得				△690,108						
自己株式の処分				189,000						
株主資本以外の項目 の事業年度中の 変動額(純額)	425,617		425,617	425,617						
事業年度中の 変動額合計	425,617		425,617	△1,678,064						
2020年3月31日 期末残高	726,787		726,787	16,192,586						

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

2020年5月20日

株式会社フェイス  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 田島 一郎 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 北池 晃一郎 ㊞

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社フェイスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社フェイス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

2020年5月20日

株式会社フェイス  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田島 一郎 ㊞指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 北池 晃一郎 ㊞

## 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社フェイスの2019年4月1日から2020年3月31日までの第28期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書(以下、「計算書類等」という。)について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。



・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告書 謄本

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2019年4月1日から2020年3月31日までの第28期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容
  - (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
  - (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
    - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
    - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
    - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2020年5月20日

株式会社フェイス	監査役会		
常勤監査役	長 吉	晋	㊟
社外監査役	清 水	章	㊟
社外監査役	菅 谷 貴 子		㊟

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案および参考事項

### 第1号議案 取締役8名選任の件

取締役全員（7名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、社外取締役4名を含む取締役8名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名	現在の地位および担当等	属性
1	ひらさわ 平澤 創	代表取締役社長 最高経営責任者 株式会社八創代表取締役 日本コロムビア株式会社取締役会長 株式会社GENESIS代表取締役 株式会社ドリーミュージック取締役会長 株式会社ワクワワークス取締役会長 株式会社フューチャーレコース取締役会長	再任
2	よしだ 吉田 眞市	取締役副社長 日本コロムビア株式会社取締役副会長 株式会社ドリーミュージック取締役副会長	再任
3	なかにし 中西 正人	専務取締役 最高戦略責任者 株式会社ウィズ・パートナーズ監査役 株式会社ワクワワークス代表取締役副社長 株式会社フェイス・ワンダワークス代表取締役社長 株式会社フェイス・プロパティ代表取締役社長	再任
4	さえき 佐伯 次郎	取締役 最高財務責任者 グループ管理本部長 株式会社フェイスフューチャーファンド代表取締役社長 BIJIN&Co.株式会社取締役	再任
5	べっしょ 別所 哲也	取締役 株式会社パシフィックボイス代表取締役 ショートショートフィルムフェスティバル&アジア代表 株式会社ビジュアルボイス代表取締役 観光庁VISIT JAPAN大使 株式会社キャストینگボイス代表取締役社長 横浜市専門委員	再任 (社外) 独立

候補者番号	氏名	現在の地位および担当等	属性
6	まさむね 正宗 エリザベス	取締役 国立大学法人千葉大学経営協議会委員 株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン代表取締役 株式会社アドバンジェン取締役 東京商工会議所日豪経済委員会次世代リーダープログラム担当委員 株式会社パソナグループ顧問 株式会社パソナグループ淡路コースフェデレーション専務理事 荒川化学工業株式会社取締役	再任 社外 独立
7	みと しげゆき 水戸 重之	取締役 TMI総合法律事務所パートナー弁護士 株式会社プロコリー 監査役 株式会社湘南ベルマーレ取締役 株式会社タカラトミー 取締役 吉本興業ホールディングス株式会社取締役	再任 社外 独立
8	たきぐち ただし 瀧口 匡	ウエルインベストメント株式会社代表取締役社長 早稲田大学アントレプレヌール研究会理事 ウエル・アセット・マネジメント株式会社取締役 科学技術振興機構STARTプログラム代表事業プロモーター 学校法人早稲田大学客員教授 日本ベンチャー学会理事	新任 社外 独立
<p>再任 再任取締役候補者    新任 新任取締役候補者    社外 社外取締役候補者    独立 証券取引所等の定めに基づく独立役員</p>			

候補者番号

1

ひら さわ はじめ  
**平澤 創** (1967年3月26日生)

所有する当社の株式数…………… 4,794,838株  
取締役会出席状況…………… 14/14回

再任

**【略歴、当社における地位および担当】**

1990年4月 任天堂株式会社入社  
1992年10月 当社創業 代表取締役社長（現任）  
2003年3月 株式会社八創代表取締役（現任）  
2010年4月 コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社（現日本コロムビア株式会社）取締役  
同社取締役会会長  
2010年6月 同社取締役会会長（現任）  
2014年9月 株式会社GENESIS代表取締役（現任）  
2017年3月 株式会社ドリーミュージック取締役会会長（現任）  
2017年5月 株式会社ワクワクワークス取締役会会長（現任）  
2017年7月 当社最高経営責任者（現任）  
2018年6月 株式会社フューチャーレコーズ取締役会会長（現任）

**【重要な兼職の状況】**

株式会社八創代表取締役  
日本コロムビア株式会社取締役会会長  
株式会社GENESIS代表取締役  
株式会社ドリーミュージック取締役会会長  
株式会社ワクワクワークス取締役会会長  
株式会社フューチャーレコーズ取締役会会長

**選任理由**

当社創業経営者であり、企業経営における幅広い見識と豊かな経験および卓越したリーダーシップの発揮により当社の企業価値向上を実現することが期待できるため、引き続き取締役候補者といたしました。

候補者番号

2

よし だ しん いち  
**吉田 眞市** (1968年3月10日生)

所有する当社の株式数…………… 7,722株

取締役会出席状況…………… 14/14回

再任

**【略歴、当社における地位および担当】**

1991年4月 伊藤忠商事株式会社入社  
2003年1月 株式会社ブロッコリー入社  
2003年5月 同社取締役  
2004年5月 同社常務取締役  
2005年5月 同社代表取締役社長  
2007年6月 株式会社磐梯インベストメンツディレクター  
2009年1月 当社上席執行役員  
2009年4月 株式会社フェイス・ワンダワークス代表取締役社長  
2010年4月 コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社（現日本コロムビア株式会社）取締役  
2010年6月 株式会社ウェブマネー代表取締役社長  
2013年6月 日本コロムビア株式会社取締役  
当社フェイス・グループ参与  
2014年1月 日本コロムビア株式会社代表取締役副社長  
コロムビア・マーケティング株式会社代表取締役社長  
コロムビアソングス株式会社代表取締役副社長  
2015年4月 日本コロムビア株式会社代表取締役社長  
2016年6月 コロムビア・マーケティング株式会社取締役会長  
コロムビアソングス株式会社取締役会長  
2017年8月 当社取締役副社長（現任）  
当社最高執行責任者  
日本コロムビア株式会社取締役副会長（現任）  
株式会社ドリーミュージック取締役副会長（現任）

**【重要な兼職の状況】**

日本コロムビア株式会社取締役副会長  
株式会社ドリーミュージック取締役副会長

**選任理由**

企業経営およびエンタテインメント業界における幅広い見識と豊かな経験から、当社の企業価値向上を実現することが期待できるため、引き続き取締役候補者といたしました。

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

候補者番号

3

なかにし まさと  
**中西 正人** (1967年12月12日生)

所有する当社の株式数…………… 1,500株

取締役会出席状況…………… 14/14回

再任

**【略歴、当社における地位および担当】**

1990年 4月 任天堂株式会社入社  
1992年10月 当社専務取締役  
2010年 9月 株式会社ウィズ・パートナーズ監査役（現任）  
2017年 3月 当社上席執行役員  
2017年 5月 株式会社ワクワワークス代表取締役副社長（現任）  
2017年 6月 当社専務取締役（現任）  
2017年 7月 当社最高戦略責任者（現任）  
2018年 6月 株式会社フェイス・ワンダワークス代表取締役社長（現任）  
2018年 7月 株式会社フェイス・プロパティ代表取締役社長（現任）

**【重要な兼職の状況】**

株式会社ウィズ・パートナーズ監査役  
株式会社ワクワワークス代表取締役副社長  
株式会社フェイス・ワンダワークス代表取締役社長  
株式会社フェイス・プロパティ代表取締役社長

**選任理由**

当社創業に多大な貢献をされ、当社および他企業の取締役・監査役を務めるなど、企業経営に関する豊かな経験を当社経営に活かすことが期待できるため、引き続き取締役候補者といたしました。



候補者番号

4

佐伯 次郎 (1959年6月2日生)

所有する当社の株式数…………… 4,432株  
取締役会出席状況…………… 14/14回

再任

**【略歴、当社における地位および担当】**

1983年 4月 株式会社熊谷組入社  
2002年 6月 日本コロムビア株式会社入社  
2002年10月 同社財務経理本部長  
2003年 6月 同社執行役  
2004年 6月 同社常務執行役  
2005年 6月 同社最高財務責任者  
2007年 6月 同社専務執行役  
2010年 6月 同社専務取締役  
2011年 4月 同社財務本部長  
2012年 6月 同社取締役  
          当社取締役（現任）  
          当社最高財務責任者（現任）  
          当社管理本部長  
2013年12月 株式会社フェイスフューチャーファンド代表取締役社長（現任）  
2017年 7月 当社グループ管理本部長（現任）  
2020年 3月 BIJIN&Co.株式会社取締役（現任）

**【重要な兼職の状況】**

株式会社フェイスフューチャーファンド代表取締役社長  
BIJIN&Co.株式会社取締役

**選任理由**

当社および他企業の管理部門の責任者としての実績など、企業経営に関する豊かな経験を当社経営に活かすことが期待できるため、引き続き取締役候補者といたしました。

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

候補者番号

5

べっ しょ てつ や  
**別所 哲也** (1965年8月31日生)

所有する当社の株式数…………… 1株  
取締役会出席状況…………… 11/14回

再任

社外

独立

**【略歴、当社における地位および担当】**

1994年 8 月 有限会社パシフィックボイス (現株式会社パシフィックボイス) 代表取締役 (現任)  
1999年 6 月 アメリカン・ショートショートフィルム フェスティバル (現ショートショート  
フィルム フェスティバル&アジア) 代表 (現任)  
2006年11月 株式会社ビジュアルボイス代表取締役 (現任)  
2009年 2 月 観光庁YOKOSO! JAPAN (現VISIT JAPAN) 大使 (現任)  
2009年10月 株式会社キャスティングボイス代表取締役社長 (現任)  
2010年 2 月 内閣官房知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会委員  
2012年 4 月 カタールフレンド基金親善大使  
2012年12月 横浜市専門委員 (現任)  
2013年 4 月 映画倫理委員会委員 (現任)  
2014年11月 NHK国際放送番組審議会委員  
2015年 7 月 外務省ジャパン・ハウス有識者諮問会議メンバー  
2015年 9 月 島田市ふるさと大使 (現任)  
2017年 6 月 当社取締役 (現任)  
2018年 6 月 一般財団法人渋谷区観光協会会長 (現任)

**【重要な兼職の状況】**

株式会社パシフィックボイス代表取締役  
ショートショートフィルム フェスティバル&アジア代表  
株式会社ビジュアルボイス代表取締役  
観光庁VISIT JAPAN大使  
株式会社キャスティングボイス代表取締役社長  
横浜市専門委員

**選任理由**

企業経営および政府機関をはじめとする公的機関・エンタテインメント業界における幅広い見識と豊かな経験から、当社に必要な経営の監督と幅広い助言をいただくことによりコーポレート・ガバナンス強化に寄与していただくため、引き続き社外取締役候補者といたしました。

候補者番号

6

まさむね

正宗 エリザベス

(1960年4月5日生)

所有する当社の株式数…………… 1株

取締役会出席状況…………… 13/14回

再任

社外

独立

### 【略歴、当社における地位および担当】

1987年1月 在日オーストラリア大使館貿易促進庁入庁  
2007年8月 在日オーストラリア大使館公使兼貿易促進庁日本総支配人  
2011年10月 オーストラリア貿易促進庁東北アジア地域本部長  
2013年9月 オーストラリア貿易促進庁貿易本部本部長  
2014年3月 株式会社@アジア・アソシエイツ代表取締役  
2014年7月 オーストラリア取締役機構グラジュエイト (GAICD) 取得  
2015年6月 国立大学法人千葉大学経営協議会委員 (現任)  
2015年7月 株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン代表取締役 (現任)  
2015年11月 株式会社アドバンジェン取締役 (現任)  
2016年6月 東京商工会議所日豪経済委員会次世代リーダープログラム担当委員 (現任)  
2016年12月 株式会社パソナグループ顧問 (現任)  
2017年12月 株式会社パソナグループ淡路ユースフェデレーション専務理事 (現任)  
2018年6月 当社取締役 (現任)  
2019年6月 荒川化学工業株式会社取締役 (現任)

### 【重要な兼職の状況】

国立大学法人千葉大学経営協議会委員  
株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン代表取締役  
株式会社アドバンジェン取締役  
東京商工会議所日豪経済委員会次世代リーダープログラム担当委員  
株式会社パソナグループ顧問  
株式会社パソナグループ淡路ユースフェデレーション専務理事  
荒川化学工業株式会社取締役

### 選任理由

元在日オーストラリア大使館公使としてビジネスや行政、国際渉外に精通しており、企業経営および政府機関をはじめとする公的機関における幅広い見識と豊かな経験から、当社に必要な経営の監督と幅広い助言をいただくことによりコーポレート・ガバナンス強化に寄与していただくため、引き続き社外取締役候補者といたしました。

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

候補者番号

7

み と しげ ゆき  
水戸 重之 (1957年5月9日生)

所有する当社の株式数…………… 一株  
取締役会出席状況…………… 14/14回

再任

社外

独立

**【略歴、当社における地位および担当】**

1989年4月 弁護士登録（第一東京弁護士会）  
1990年10月 TMI総合法律事務所の創設に参画  
1999年4月 同事務所パートナー弁護士（現任）  
2002年6月 株式会社タカラ監査役  
2002年12月 株式会社ティー・ワイ・オー監査役  
2006年3月 株式会社タカラトミー監査役  
2006年4月 学校法人早稲田大学スポーツ科学研究科（大学院）講師（現任）  
2006年5月 株式会社ブロッコリー監査役（現任）  
2006年6月 吉本興業株式会社監査役  
2010年1月 株式会社湘南ベルマーレ取締役（現任）  
2013年12月 国立大学法人筑波大学ビジネス科学研究科（企業法学専攻）講師（現任）  
2015年6月 株式会社タカラトミー取締役（現任）  
2016年6月 吉本興業株式会社（現吉本興業ホールディングス株式会社）取締役（現任）  
日本コロムビア株式会社監査役  
2018年4月 学校法人武蔵野大学法学研究科客員教授（現任）  
2018年6月 当社取締役（現任）

**【重要な兼職の状況】**

TMI総合法律事務所パートナー弁護士  
株式会社ブロッコリー監査役  
株式会社湘南ベルマーレ取締役  
株式会社タカラトミー取締役  
吉本興業ホールディングス株式会社取締役

**選任理由**

弁護士としての幅広い見識と豊かな経験から、当社に必要な経営の監督と幅広い助言をいただくことによりコーポレート・ガバナンス強化に寄与していただくため、引き続き社外取締役候補者といたしました。

候補者番号

8

た き ぐ ち た だ し  
瀧 口 匡

(1962年4月3日生)

所有する当社の株式数…………… 一株

取締役会出席状況…………… 一回

新任

社外

独立

### 【略歴、当社における地位および担当】

1986年4月 野村証券株式会社入社  
1997年11月 ウインドマーク投資顧問株式会社専務取締役  
2002年7月 株式会社アクセル・インベストメント代表取締役  
2005年12月 ウエルインベストメント株式会社代表取締役社長（現任）  
2006年1月 早稲田大学アントレプレヌール研究会理事（現任）  
2007年6月 ウエル・アセット・マネジメント株式会社取締役（現任）  
2009年7月 日本ベンチャーキャピタル協会監事  
2009年9月 学校法人早稲田大学学術博士Ph.D.（国際経営）  
2011年4月 早稲田大学ビジネススクール非常勤講師  
2012年5月 文部科学省STARTプロジェクト（現科学技術振興機構STARTプログラム）  
代表事業プロモーター（現任）  
2014年7月 日本ベンチャーキャピタル協会理事  
2017年4月 学校法人早稲田大学客員教授（現任）  
2017年12月 日本ベンチャー学会理事（現任）

### 【重要な兼職の状況】

ウエルインベストメント株式会社代表取締役社長  
早稲田大学アントレプレヌール研究会理事  
ウエル・アセット・マネジメント株式会社取締役  
科学技術振興機構STARTプログラム代表事業プロモーター  
学校法人早稲田大学客員教授  
日本ベンチャー学会理事

### 選任理由

ベンチャーキャピタルの代表者として証券市場および資本政策をはじめ最先端技術やビジネスモデルの事業化に精通しており、企業経営および政府機関等の公的機関における幅広い見識と豊かな経験から、当社に必要な経営の監督と幅広い助言をいただくことによりコーポレート・ガバナンス強化に寄与していただくため、社外取締役候補者といたしました。

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告

株主総会参考書類

- (注) 1) 水戸重之氏は、TMI総合法律事務所のパートナー弁護士であります。TMI総合法律事務所と当社の間には法律業務にかかる取引関係がありますが、その取引額は当社の当期連結決算における売上高の0.01%未満であり、僅少であります。同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で直接会社経営に関与されたことはありませんが、弁護士資格を有しており、専門的な知識や経験から、社外取締役の職務を適切に遂行できるものと考え、当社に必要な経営の監督とチェック機能を期待し、社外取締役候補者としたものであります。また、瀧口匡氏は、ウエルインベストメント株式会社の代表取締役社長であります。ウエルインベストメント株式会社は当社が出資する早稲田1号投資事業有限責任組合の無限責任組合員であります。その出資額は当社の当期連結決算における総資産の0.3%未満であり、僅少であります。
- なお、他の候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
- 2) 別所哲也氏、正宗エリザベス氏、水戸重之氏および瀧口匡氏は、社外取締役候補者であります。
- 3) 別所哲也氏は、現在当社の社外取締役であり、その在任期間は本総会終結の時をもって3年となります。
- 4) 正宗エリザベス氏および水戸重之氏は、現在当社の社外取締役であり、その在任期間は本総会終結の時をもって2年となります。
- 5) 当社は、別所哲也氏、正宗エリザベス氏および水戸重之氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ており、3氏の再任が承認された場合には、引き続き3氏を独立役員とする予定であります。また、瀧口匡氏の選任が承認された場合には、同氏を独立役員として新たに同取引所に届け出る予定であります。
- 6) 当社は、別所哲也氏、正宗エリザベス氏および水戸重之氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づく責任限定契約を法令の定める最低責任限度額を限度として締結しており、3氏の再任が承認された場合には、本契約を継続する予定であります。また、瀧口匡氏の選任が承認された場合には、当社は同氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づく責任限定契約を法令の定める最低責任限度額を限度として締結する予定であります。

## (ご参考) 取締役候補者の専門性と経験

取締役候補者の専門性と経験は、次のとおりであります。

候補者 番号	氏名	経営 全般	独立性 (社外)	音楽事業 の知見	国際性	投資分析 資本政策 財務会計	法務
1	平澤 創	●		●			
2	吉田 眞市	●		●			
3	中西 正人	●			●		
4	佐伯 次郎	●				●	●
5	別所 哲也	●	●		●		
6	正宗 エリザベス	●	●		●		
7	水戸 重之		●				●
8	瀧口 匡	●	●		●	●	

## 第2号議案

## 監査役1名選任の件

監査役清水章氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名	現在の地位等	属性
しみず 清水 章	監査役 公認会計士・税理士（清水公認会計士・税理士事務所） グッディポイント株式会社監査役 日本商業開発株式会社監査役 東銀座監査法人社員	再任 社外 独立

再任 再任監査役候補者 新任 新任監査役候補者 社外 社外監査役候補者 独立 証券取引所等の定めに基づく独立役員



しみず あきら  
清水 章

(1957年11月10日生)

再任

社外

独立

所有する当社の株式数…………… 910株  
取締役会出席状況…………… 14/14回  
監査役会出席状況…………… 17/17回

### 【略歴、当社における地位】

1981年 4 月 清水会計事務所（現清水公認会計士・税理士事務所）入所（現任）  
1989年10月 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）入所  
1993年 8 月 公認会計士登録  
2000年 8 月 当社常勤監査役  
2000年10月 税理士登録  
2005年11月 グッディポイント株式会社監査役（現任）  
2006年11月 日本商業開発株式会社監査役（現任）  
2012年 6 月 当社監査役（現任）  
2016年 7 月 東銀座監査法人社員（現任）

### 【重要な兼職の状況】

公認会計士・税理士（清水公認会計士・税理士事務所）  
グッディポイント株式会社監査役  
日本商業開発株式会社監査役  
東銀座監査法人社員

### 選任理由

公認会計士および税理士としての専門的見地ならびに財務および会計に係る幅広い知識と見識を当社の監査に活かしていただくため、引き続き社外監査役候補者といたしました。

- (注) 1) 清水章氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。  
2) 同氏は、社外監査役候補者であります。  
3) 同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で直接会社経営に関与されたことはありませんが、公認会計士および税理士としての専門的見地ならびに財務および会計に係る幅広い知識と見識を当社の監査に活かしていただくため、社外監査役として選任をお願いするものであります。  
4) 同氏は、現在、当社の特定関係事業者（子会社）でありますグッディポイント株式会社の非業務執行役員であり、過去5年間においても同社の非業務執行役員でありました。  
5) 同氏は、現在、当社の社外監査役であります。監査役としての在任期間は、本総会の終結の時をもって19年10ヶ月となります。  
6) 当社は、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ており、同氏の再任が承認された場合には、引き続き同氏を独立役員とする予定であります。  
7) 当社は、同氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づく責任限定契約を法令の定める最低責任限度額を限度として締結しており、同氏の再任が承認された場合には、本契約を継続する予定であります。

### 第3号議案

## 補欠監査役1名選任の件

本総会開始の時をもって補欠監査役選任の効力が失効しますので、法令または当社定款に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本選任につきましては、就任前に限り、監査役会の同意を得て、取締役会の決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名	現在の地位等
おち 越智 としひろ 敏裕	弁護士（東京平河法律事務所） 学校法人上智学院上智大学法科大学院教授

お ち とし ひろ  
**越智 敏裕**

(1972年1月21日生)

所有する当社の株式数…………… 一株

**【略歴、当社における地位】**

1996年4月 弁護士登録（東京弁護士会所属）  
コスモ法律事務所（現東京平河法律事務所）入所（現任）

2002年2月 日本弁護士連合会行政訴訟改革委員会委員（現任）

2004年4月 学校法人上智学院上智大学法科大学院助教授

2007年4月 同大学法科大学院准教授

2008年4月 学校法人上智学院上智大学法学部地球環境法学科准教授

2011年4月 同大学法学部教授  
同大学法科大学院教授（現任）

2013年4月 同大学法学部地球環境法学科長

**【重要な兼職の状況】**

弁護士（東京平河法律事務所）  
学校法人上智学院上智大学法科大学院教授

**選任理由**

弁護士および大学教授として法務全般に係る豊富な知識と経験を有しており、社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、引き続き補欠監査役候補者といたしました。

- (注) 1) 越智敏裕氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。
- 2) 同氏は、補欠の社外監査役候補者であります。同氏が社外監査役に就任した場合には、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として新たに同取引所に届け出る予定であります。
- 3) 同氏は、直接会社経営に関与されたことはありませんが、弁護士および大学教授として法務全般に係る豊富な知識と経験を有しており、社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、引き続き補欠監査役として選任をお願いするものであります。
- 4) 同氏が監査役に就任された場合、当社は同氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づく責任限定契約を法令に定める最低責任限度額を限度として締結する予定であります。

以 上









# 定時株主総会会場ご案内図

会場

東京都港区南青山6-10-12  
フェイス南青山  
Future SEVEN  
TEL (03) 5464-7633

交通

最寄駅 ・銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」 出口B1より徒歩約15分  
・JR線「渋谷」 東口/都バス01系統「新橋」行き 青山学院中等部前バス停下車/乗車約5分



※駐車場の用意はいたしておりませんので、お車での来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。